

進捗状況の概要			
本事業の平成 27 年度実績を以下にまとめた。			
	事業内容・実行計画	実績概要	具体的成果
①	活動・協働先と協定締結することで、実施基盤を固め、次年度以降の取組の安定的な実施を図る	連携先のうち特に地方自治体 7 市町村をはじめ、多くの活動支援団体等と協定締結し、次年度以降の実施基盤を固めた。	4 学期制の全学導入と併せ、長期学外学修プログラムを推進するための教育課程を整理した。
②	本学と活動・協働先との相互の目的を達成するため、到達目標から具体的なプログラムに至るまで協議	大学担当者が直接現地に複数回赴き、互いの到達目標やプログラムの設計詳細、危機管理等に至るまで綿密な事業協議を行なった。	プログラムの長期化に伴い、事前・事後学修を積極的に組入れ、より充実した教育体系とした。
③	プログラムをコーディネートできる教員等を採用し、プログラムの開発段階から担当させ次年度に備える	プログラム・コーディネーター計 6 人、協力者及び TA5 名を新規採用。次年度の実施に繋げる実施基盤の構築に向け取り組んだ。	プログラムの長期化に向けて、TA の現状以上の活用を可能にする制度の構築を検討できた。
④	1 か月以上に設定した国内外インターンシップを実施する	1 ヶ月以上のインターンシップを海外 22 名、国内 9 名実施。	社会性や職業観の醸成が学生面談等から確認できた。
⑤	語学留学を 1 か月以上に改編し直す事で知見を重ね、次年度の本格実施に備える	語学研修プログラム（第 2 学期～夏期）として 8 大学へ計 63 名を 5 週間～10 週間にわたり学生を派遣。	派遣数の拡大に向けて、提携先と連携できた。
⑥	取組内容および成果を共有するため WEB を利用し、社会に発信する	取組成果をホームページ掲出。Facebook に活動経過を掲出。学内外の認知を拡大できた。	学内外のステークホルダーの当該事業に対する認知を拡大できた。
⑦	大学祭で取組の成果発表。ポスターセッションとプレゼンを計画	大学祭での成果発表に代えて、地域連携先と協働した特産品の物販を実施。	学生の自主的参加で連携先との関係性が深化。
⑧	活動・協働先との合同協議会を開催することで、相互評価し、お互いの教育方法の改善に繋げる	第 1 回武蔵野大学長期学外学修プログラム開発協議合同会議を実施（2/26）。連携先 13 団体より計 26 名に参加いただいた。	教育効果を定性的に把握でき相互理解が促進。次年度プログラムの課題と質的向上策を整理。
⑨	外部有識者から俯瞰的および客観的な評価を受ける	第 1 回 武蔵野大学長期学外学修プログラム開発有識者会議（2/26）	有識者の改善点指摘を受け推進上の課題整理。
⑩	春期休暇期間を利用した 1 か月以上の語学留学プログラムを開発する	第 1 回 武蔵野大学長期学外学修プログラム開発有識者会議開催。（2/26）	海外インターンシップ等への挑戦を試みる意識を涵養できた。
⑪	年間計画に基づき全学的な FD・SD 研修を開催する。2 月開催会は公開シンポジウムとする	全学的な FD 研修を年 6 回実施。学外学修プログラムの導入効果等について理解を促進。2 月には公開シンポジウムを実施し学外へ成果発信。	FD では本取組に対する教職員の一定理解を促進。次年度以降の全学的施策に連動させる。
⑫	新規の活動・協働先を開拓し拡充。プログラムの概要や特長等を広く周知する	当該年度の活動状況を成果集として冊子にまとめ、地方公共団体計 1600 箇所に送付するなど、活動・連携先の開拓に力を入れた。	協働先の拡充とプログラムの長期化及び、派遣学生の増加を図ることができた。